

# 会話に見られるエンブレム (Emblem) の 実際についての一考察

近 藤 富 英

## 1. はじめに

コミュニケーション行動において、手や頭の動きなどの非言語行動が同時に使用されていることは、日常的に経験していることである。非言語行動にはパラランゲージ (Paralanguage= 類似言語機能) とカイネシックス (Kinesics= 身振り) があり、それらを人間が場面・状況の中で、スピーチ (Speech= 言語) と一緒に使用している。これらが相互に関連することによってコミュニケーションが成り立つことはこれまでの研究で解明されてきた。

ただし、カイネシックスにもさまざまな種類があり、たとえば特定の発話や単語を強調したりリズムをつけたり、ある事象や事物を表したり、あるいは言葉の代わりに説明として用いたり、時には会話のスムーズな進行を促すなど、さまざまな役割を果たしている。本稿では、ポール・エックマン (Paul Ekman) (1979) が行ったカイネシックスの分類のうち、文化的に定められていると言われるエンブレム (Emblems) について、インタビュー番組を基に、実際の会話ではどのようなエンブレムがどのような場面で使用されているか検証することを目的としている。

## 2. 研究の背景

1950~60年代の当初より、パラランゲージに比べてカイネシックスの研究は比較的さかんであったが、本稿で参考にしたのは、ポール・エックマン (Paul Ekman, 1979) による "Four Types of Facial Expression and Body Movement" である。この中で、エックマンはカイネシックスをその役割から大きく以下の三つに分類している。

### (1) エンブレム (Emblems)

意識的に使用される文化的に定められた身振りであり、言語 (Language) より独立して単独で使ってもその意味が通じるもの。

### (2) ボディ・マニピュレーター (Body Manipulators)

無意識的な動作であり言語とは関係が無く、むしろ動作をしている人の心理と関わりのあるもの。エックマンはこれを bathroom behaviors と呼んでいる。

### (3) イラストレーター (Illustrators)

言語に付随して用いられ、話の内容を説明し、8つに分類される。

- 1) Batons : 特定の語を強調する動作
- 2) Underliners : 句・節・文を強調する動作
- 3) Ideographs : 考えの流れや方向を示す動作
- 4) Kinetographs : 身振りや人間以外のものの動きを説明する動作
- 5) Pictographs : 言及しているものの形を空中に描く動作
- 6) Rhythmics : 物事のリズムを表す動作
- 7) Spatials : 空間の位置関係を示す動作
- 8) Deictics : 言及されているものを指す動作

エックマンは上記の三つの他に、話し手と聞き手との間の会話の流れを調節するものとしてレギュレーター (Regulators) を挙げている。たとえば「うなずき」や視線などである。このように言語行動には、さまざまなカイネシックスが関わっているが、本稿ではとくにエンブレムを取り上げ、実際の会話において、どのようなものが出現しているのかを探ることを目的とする。

### 3. データ・ベースについて

#### 3.1. 基にしたインタビュー番組

今回データとして使用したのは、2004年9月29日にテレビ朝日系で放送されたインタビュー番組の『徹子の部屋』である。コミュニケーション行動においては、言語 (スピーチ)、身振り (カイネシックス)、類似言語機能 (パラランゲージ) などのさまざまなコードが同時に使用されるのが普通である。そしてそれらを記述したデータ・ベースが用意されると、同じデータ・ベースを基に、さまざまな観点からの観察・分析研究が可能となる。上記のデータ・ベースを基にして、近藤 (2005) ではポーズの観察、近藤 (2006) ではギグリング、近藤 (2008) では声門制御などのパラランゲージについて考察したが、今回は同じデータ・ベースを使用して、カイネシックスの中のエンブレムを取り上げた。データ・ベースの基となったインタビュー番組の『徹子の部屋』について簡単に説明しておく。毎回、司会役の黒柳徹子がゲストをスタジオに招き、正味30分の対談をする番組である。取り上げたのはゲストとしてシンガー・ソングライターのタケカワユキヒデを招いたときの番組であり、話のテーマは主にゲストのタケカワユキヒデの長女の結婚式についてである。

#### 3.2. データ・ベース作成方法について

データのデータ・ベース作成の手順は以下のとおりである。

- (1) 資料として用いるために適当と判断した番組をビデオ録画する (分析に用いているのが、タケカワユキヒデがゲストの回の『徹子の部屋』)。
- (2) データ・ベースとして利用するには、開始からの時間やある特定の行動の始まりや終わり時間、持続時間などを知る必要があることから、ビデオタイマー (V T G - 33, (株) 朋栄) を使い画面に1/10秒ごとの経過時間を付ける。
- (3) オーディオ・テープに音声のみを録音したのち、それを基に言葉 (スピーチ) 全体を

データ・シートに書き起こす。データ・シートとは今回検討するエンブレムなどのカイネシックスやパラランゲージなどの三つのコードを同時に記録するために考案したものである。

- (5) タイマー入りのビデオを見ながら、書き起こした文字に沿って、あらかじめ決めた記号を使いながら、パラランゲージとカイネシックスを記録していく。本論ではエンブレムの種類やその意味を考察することが目的なので、とくにエンブレムに着目するが、他の身振りやイントネーションなどとも関係していることが考えられるので、パラランゲージや他のカイネシックスも同時に記録する。これにより、どんな行動がいつ、そしてどんな行動と一緒に生じているかを総合的に把握することができる。

### 3.3. データ・シートについて

データ・シートは下記のようなものであり、これに三つのコード（スピーチ、カイネシックス、パラランゲージ）を同時に記録することによってデータ・ベースを作成する。B4の大きさの用紙を横向きに使い、上下2段に分けて、それぞれ黒柳（K）とタケカワ（T）のふたりのコミュニケーション行動が記入できるようになっている。それぞれの記入部分は、言語コード（L）とパラランゲージ・コード（P）、さらに身振り動作などのカイネシックス・コード（K）を記入する三つの部分に分かれている。なお、一番上のTには番組が始まってからのリアルタイムの分と秒が記入できるようになっている。

T	分 秒	
K	K P L	
T	K P L	

### 3.4. データ・シートに使用する記号

言語コード（L）には、両者の実際の発話をそのまま記録するが、データ・ベースとして読みやすくするために漢字かな混じりの正書法を用いた。カイネシックス・コード（K）にはエンブレムと思われる動作があったり、視線や腕の動きなどの特徴的な動きがあった場合に、その動作を記号と一緒に記述した。Pはパラランゲージを記録する欄であるが、声門制御（Glottis Control）の生じた個所にはGcとい記号を用いた。インターアクションの中で、視線や腕の動きなど特徴的な動作があった場合はK（カイネシックス）の欄にその動きを記録した。以下に使用した記号について記す。

パラランゲージについて

Gc (glottis control): 声門制御

Ing (ingressive): 吸気

Hiss (hissing sound): 吸気 (スー音)

Ps (pause): ポーズ

Gi (giggling): ギグリング

Lf (laughing): ラッフイング

Te (tempo): 速さ

——>: 継続と終了点を示す

### カイネシックスについて

言葉と次の記号を併用して記述した。

Rt: 右, Lt: 左

RtH: 右手, LtH: 左腕, BH: 両手,

RtA: 右腕, LtA: 左腕, BA: 両腕,

Hd: 頭

Pst: 姿勢

Bw: おじぎ

Nd: うなずき

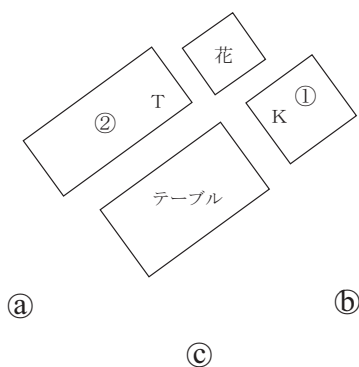
Sm: ほほ笑み

Ey: 視線

K, P, Lの三つのコードを同時に書き表すことにより, 時間の経過とともに全体の行動が総合的に把握でき, また二人の行動が重なっても同時に表すことができる。(ただし, モニター画面に一人しか映されていない場合は, その人のカイネシックスは不明となり, これがテレビ番組をデータとして用いるデメリットになるが, 大きな支障はないと判断する。)

### 3.5. 参加者とスタジオのセット

テレビ局のスタジオのセットが番組の収録場所であるが, 青空と緑が映るガラス窓を模した背景をバックにして, 2人のための椅子とソファが直角に配置され, 向かって右の椅子には黒柳(K)が, 左側のソファにはタケカワ(T)がそれぞれ座っている。椅子とソファ間のサイドテーブルには花が置かれ, タケカワと黒柳の前にはやや大型のテーブルが



配され、コーヒーが置かれている。以上を図示すると、概ね以下のような配置となる。

①と②に黒柳とタケカワがそれぞれくつろいだ様子で座っている。a, b, c の3カ所にテレビカメラがあるようで、aが黒柳を、cがタケカワをそれぞれ大写しにし、bが二人を同時に撮影していると思われる。

#### 4. 結果と考察

エックマンがエンブレムについて Certain emblems may be difficult to distinguish from certain illustrators. (1979:188) と述べているように、エンブレムとイラストレーターの区別が難しいものがあった。たとえば、次の例1は、T (タケカワ) が、娘の結婚式で演出を手掛けたときに、いかに多くの人を感動させて泣かせるかの話をしたときのものである。

例1

T	分 秒	23 40	44
K	K P L		
T	K P L	BHを胸の前で向かい合わせて止め、そのまま山を作って右へ移動——→ いかに多くの人に泣いてもらうのが勝負なんで、自分は置いていて、	

自分は演出を担当しているので、自分が感動するのは置いておいて、という意味で「自分は置いていて」と言っている場面である。両手を胸の前で15 cm くらい離して向かい合わせて、それをそのまま山を作りながら持ち上げてやや右側に降ろしてくる動作であり、日本人には馴染みのある動作だと思われる。日本特有のジェスチャーと考えればエンブレムであるが、自分を離れたところに持っていく説明的な動作だと見なすとイラストレーターとも考えられる。このような例はたくさんあり、どちらに分類すべきか迷うのであるが、あらためてエンブレムは以下のように定義することにする。

エンブレムの特徴：

- (1) 文脈外にあっても比較的正確に意味が伝わる。
- (2) 言葉とかなりの部分で置き換えることができる。
- (3) 文化固有のものであることが多い。
- (4) かなり意識的に使われる。

上記の「自分は置いていて」というのは、文脈外ではやや意味が不明というか多義的かもしれないが、「自分は」と言ってから「置いていて」と言わなくても、この動作をすれば意味が通じそうである。またかなり意識をして使われていると思われる。ただ、日本文化固有かどうか

は調査してみないとわからない。すなわち、非常に分類に迷うのであるが、文脈外であり意味が通じそうでないということを考えて今回はイラストレーターに入れることにする。

このように考えると、それほど多くのエンブレムは使用されていないことがわかるが、今回はそれでも以下のような種類のエンブレムが得られた。

- (1) 挨拶の「おじぎ」と「へりくだり」
- (2) 考えていることを示す→上を向く
- (3) 感情を表す→口に手を当てて恥ずかしさを示す
- (4) 物体の代替を示す→電話やケーキの切り方

#### 4.1. 挨拶に関連したエンブレム

##### 4.1.1. おじぎ

例 2

T	分 秒	0 10	15	17
K	K P L	Hd を前に下げる 今もまた歌われて、たいへん繁盛しているようでございます。		
T	K P L	Sm→ あら、		

この例は、番組の冒頭でK（黒柳）が視聴者に向かってTを紹介している場面であるが、「繁盛しているようでございます」と言いながら、頭を下げている。「ございます」という言葉と置き換えることはできないが、丁寧な挨拶とわかるのでエンブレムであると考えられる。このように必ずしも特定の言葉と置き換えられないエンブレムもあるようだ。

##### 4.1.2. へりくだり

例 3

T	分 秒	4 30	31
K	K P L	あなたが	
T	K P L	RtH を膝の上に置いて頭を下げる Lf→ すいません すいません	

この例は、みんなが質素な結婚式を希望していたのに、Tがいろいろ盛り上げる案を計画したので、「すみません」と笑いながら誤っている個所である。笑いながらであり、ユーモアたっぷりに述べているので実際の謝罪とは異なるが、両手を膝に乗せて頭を下げている。「へりくだり」のおじぎであり、たとえ「すみません」と言わなくても「誤っている」とわかるのでエンブレムであると言える。

#### 4.2. 考えていることを示すエンブレム

考えていることを示すために、首を傾げたり、上を向く例は比較的多く見受けられた。

##### 例 4

T	分 秒	9 50	53
K	K P L		
T	K P L	上を向く—————→ Te> 遅い—————→ そうか、これお父さんやってくれるかな、っていうんで、その新郎のお父さん	

この例は、Tが新郎のお父さんに神父の役を頼みたいと考えたのだが、はたしてお願いできるだろうか、と考えているようすをKに説明をしているときに上を向いたものである。視線も一緒に上を向いている。テンポも遅いことから考えているようすを示していることがわかる。

#### 4.3. 感情を表すエンブレム

次の例に見られるように、特定の気持ちを表すエンブレムもある。

##### 例 5

T	分 秒	2 40	43
K	K P L	Ey—————→ 結婚なさることになったお嬢様は何歳？	
T	K P L	笑いながら口に手を当てて上を向く—————→ えー、24かな、かな、なってきちゃった。	

これは、Tが今度結婚することになった娘の年齢を聞かれて、すぐに答えられなかったので、恥ずかしさを示すために口に手を当てている例である。4.2で観察された「考えている

ときのエンブレム」(=上を向くようす)も一緒に使われているのが興味深い。このように複数のエンブレムが同時に使われることもあるのである。

#### 4.4. 物体の代替を表すエンブレム

物体の代わりに使用するものが本来のエンブレムであると考えられるが、下の例は「電話」を示した例である。

##### 例6

T	分 秒	15 5	7
K	K P L		
T	K P L	左手でこぶしを作って左耳の近くに持っていく なんかそういう話聞いたんだけど、そんなら私が作ってあげるわよ。	

これはTが娘のウエディングドレスをどうやって準備しようかと考えていたら、それを伝え聞いた(奥さんの)親友の秋川リサが「私が作ってあげるわよ」と電話をしてきたときのようすを話している例である。秋川リサのふりをして電話をかけていることを表しているが、握った左手を左耳に持って行っている。ただし、この動作は「話を聞いたんだけど」という内容自体と置き換えることができない。この発話全体が電話だということを示しているわけである。このように、エンブレムは最初の定義とはやや異なり、もっとダイナミックに働いていることがわかる。

## 5. さいごに

エンブレムは身振り(カイネシックス)の中心とも見なされてきたジェスチャーであるが、必ずしもエックマンや最初の定義にはおさまらず、もっとダイナミックでいろいろな種類があることがわかった。すなわち電話などの物体の代替として使われる以外に、挨拶と一緒に使われたり、考えている「しぐさ」であったり、感情をも表すことがわかった。

これからの課題としては、イラストレーターとの精緻な区別や文化に共通したエンブレムなどの研究が考えられる。

## 参考文献

Ekman, Paul

1979 "Four Types of Facial Expression and Body Movement," *Hidden Dimensions of Communication*, pp.175-200, Fred .C. Peng (ed), Hiroshima: Bunka Hyoron Publishing



Company.

近藤富英

2006 「ノンバーバル・コミュニケーション行動としてのポーズの機能と役割への一考察」,  
『信州大学人文学部人文科学論集<文化コミュニケーション学科編>』, 第40号。

近藤富英

2007 「会話におけるギグリングの機能と役割への一考察」, 『信州大学人文学部人文科学論  
集<文化コミュニケーション学科編>』, 第41号。

Poyatos, Fernando

1982 "Language and Nonverbal Behavior in the Structure of Social Conversation,"  
*Language Sciences*, 4. 2. pp.155-85.

Trager, George L.

1958 "Paralanguage: A First Approximation," *Studies in Linguistics*, New York:  
Department of Anthropology and Linguistics, University of Buffalo. Also produced in  
*Language in Culture and Society: A Reader in Linguistics and Anthropology*, Dell  
Hymes (ed.) .

(2009年11月17日受理, 11月24日掲載承認)